



夕風の街 桜の国

2 基町環境護岸

戦後、基町の川岸は被災して住居を失った人々の生活の場となりました。原作の舞台でもあり、ロケ地にもなったこの場所は、「基町POP' La(ポップラ)通り」の愛称で親しまれています。



アカシアの木の下で皆実の恋人打越(田山涼成)と旭(堺正章)の再会。



東子に借りた上着から出てきた紙に書かれていたのは…。

美術スタッフの作った詞。



3 相生橋



原爆ドームを背に夕風を感じる七波(田中麗奈)と東子(中越典子)。



6 広電西広島(己斐)駅・被爆電車

戦後も市民とともに走り続けた被爆電車4両のうち、2両が、撮影の約一ヶ月前に引退となりました。貸切で撮影に使用した被爆電車内に飾られた「被爆電車へのメッセージ」をご覧になった堺正章さんは「印象に残るロケ地となりました。」とコメント。



1 寺町 圓龍寺

夕立によるスケジュール変更で、お盆真っ只中の撮影になったにも関わらず、ご住職やお墓参りの皆さんの協力で撮影が無事終了。「作品の持つ力だと感謝しています。」と佐々部監督。



お盆の撮影になったため、安芸門徒のカラフルな盆灯籠が画面を埋め尽くすお墓のシーンが撮れました。

7 高陽中央病院付近K邸

美しい屋根瓦の旧家。佐々部監督も一目見てロケ地に即決



演出中の佐々部監督。堺正章さん(左)が手にするものは…?



父の様子をうかがう七波と東子。

美術スタッフが映画用に制作した町内掲示板。

8 広島駅新幹線口



夜行バスで広島に到着した旭。スタンバイするエキストラさんたち。



夜行バスで東京に戻るシーン。広島滞在を経た七波の表情の変化に注目!!

9 府中町

皆実(麻生久美子)のかつて同僚でもあった友人の家を訪れる旭。



5 広島平和記念資料館



父を追って広島平和記念資料館へ。柱の影から様子をうかがう七波。



東子が一一人、広島平和記念資料館を見学するシーン。

4 平和記念公園



原爆がもたらした真実を広島平和記念資料館で実感した東子。

昭和33年の広島基町を見事再現!

抜群に気持ちのいいロケーション!

“ダイヤ・モンドだね〜”
“ア〜ア〜” “ア〜ア〜”

